

平成 26 年 3 月 1 日

芦屋市長 山中 健 様

芦屋市立美術博物館 指定管理者

小学館集英社プロダクション共同体
代表者 株式会社 小学館集英社プロダクション
住所 東京都千代田区神田神保町 2-30 昭
代表取締役社長 紀伊 高明

平成 26 年度 事業計画書について

別紙添付書類の通り、芦屋市立美術博物館の平成 26 年度 事業計画書を提出いたします。

平成 26 年 3 月 1 日

芦屋市立美術博物館
平成 26 年度 事業計画書

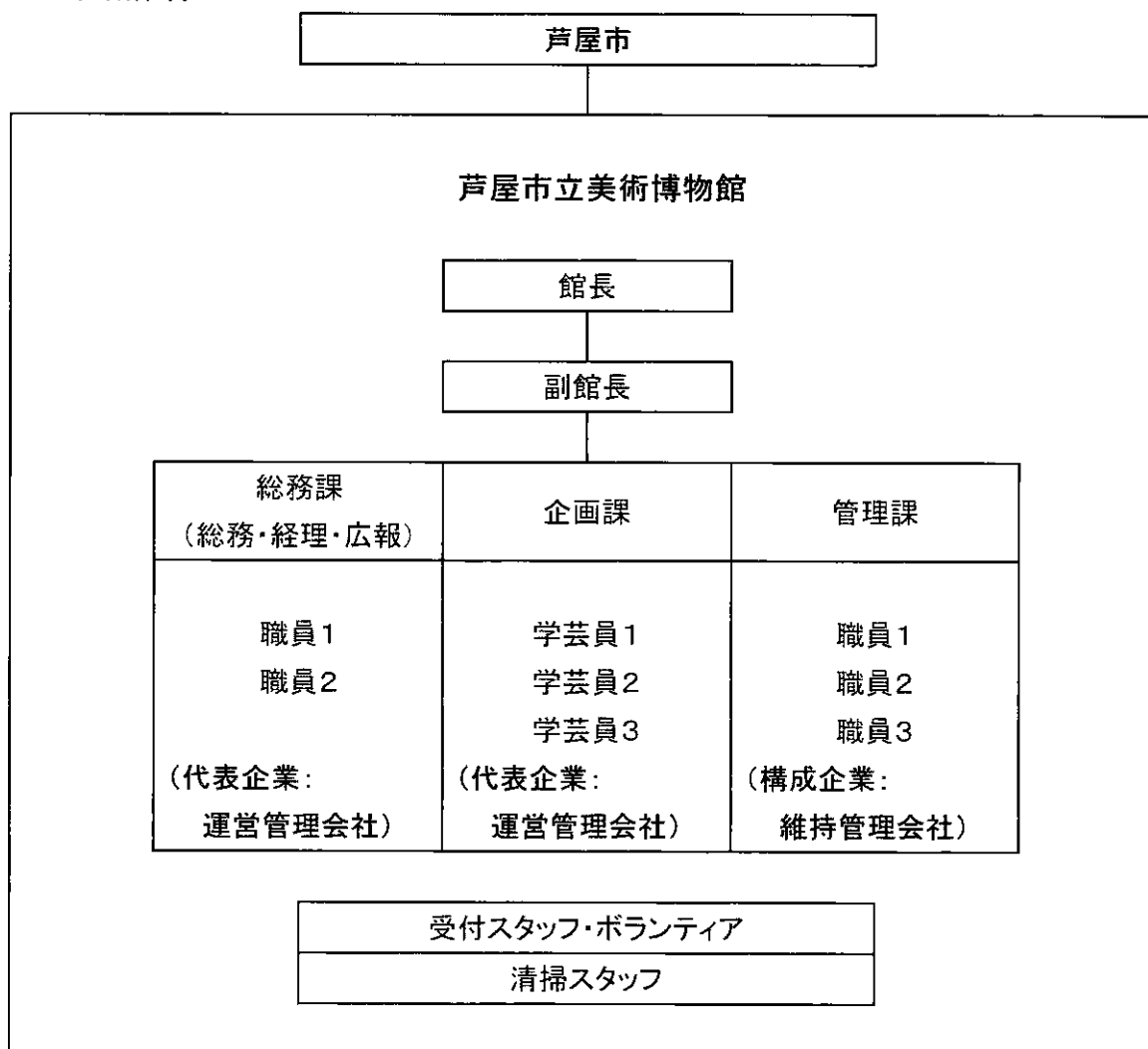
(指定管理者)

小学館集英社プロダクション共同体

1. 指定管理者の概要

指定管理者名	小学館集英社プロダクション共同体
代表者名	株式会社 小学館集英社プロダクション 代表取締役社長 紀伊 高明
所在地	本 社：東京都千代田区神田神保町2-30 昭和ビル 関西支社：大阪府中央区淡路町4-4-11 アーバネックス淡路町ビル2階
電話番号	本 社：03-3515-9110 (代表) 関西支社：06-6206-0045 (社会教育関西事務局)
FAX番号	関西支社：06-6206-0041
担当	運営管理：株式会社 小学館集英社プロダクション 維持管理：グローバルコミュニティ株式会社

2. 組織体制



3. 施設職員体制

施設職員	館長	: 1名 (非常勤)
	副館長 兼 事務局長	: 1名
	総務課	: 2名
	企画課 (学芸員)	: 3名 (美術2名、歴史1名)
	管理課 (防火管理者)	: のべ1名 (非常勤職員3名)
※ その他展覧会受付スタッフ、ボランティアは展覧会等に併せて配置		
事務分掌	館長	: 館全体の総責任者
	副館長	: 運営・管理に関する統括責任者 (※事務局長: 芦屋市との報告・連絡)
	総務課	: 総務事務、経理、各種申請書管理、広報活動 他
	企画課	: 展覧会・教育普及事業の企画・実施、作品の保存 調査・研究、各種広報物の作成 他
	管理課	: 施設、設備の維持管理、危機管理

4. 芦屋市立美術博物館 運営基本方針

美術博物館の設置目的・使命に基づいて、下記の項目に沿った管理運営を行います。

- ① 市・市民・利用者と協働して美術博物館の運営を担い、常にレベルアップした運営に取り組めます。
- ② 多くの市民・利用者に来館いただけるよう、公平平等に配慮した施設有効利用を図ります。
- ③ 関連する法令・法規、個人情報保護、守秘義務の遵守と、環境への配慮に努めます。
- ④ 利用者の安心・安全を第一に考え、危機管理対策に努めます。
- ⑤ 無駄な経費は運営努力により縮減し、健全で継続的な運営サイクルの構築に努めます。
- ⑥ 3年間の運営実績と当グループのノウハウを最大限に利用し、利用者の拡大に挑戦し続けます。

5. 利用料金

利用料金は、条例に沿った下記の料金設定を据え置きとします。

① 観覧料

区分	個人	団代 (20人以上)	特別展示観覧料
一般	300円	240円	2,000円の範囲内において教育委員会がその都度定める額
大学生・高校生	200円	160円	
中学生以下	無料		

② 特別観覧料

区分		特別観覧料 (1点1日につき)	
熟覧		300円	
模写、模造等		500円	
撮影	モノクローム	学術研究を目的とする場合	200円
		出版等の収入が伴う場合	1,000円
	カラー	学術研究を目的とする場合	400円
		出版等の収入が伴う場合	2,000円

③ 施設使用料

区分	使用料		
	午前10時から 正午まで	午後1時から 午後4時30分 まで	午前10時から 午後4時30分 まで
講義室	2,800円	4,300円	7,100円
体験学習室	4,100円	6,700円	10,800円

④ 駐車場使用料

時間	料金
1時間以内	無料
1時間を越えた場合	100円/30分

6. 展覧会予定（別途年間予定表を添付）

指定管理者制度導入初年度である平成 23 年度展覧会は美術部門が主であったため、平成 24 年度以降は歴史部門にも力を入れ、「古代の芦屋」「中世・近世の芦屋」「芦屋巡礼の路」を、年間シリーズとして開催しました。また、美術部門では、館蔵品の中心となる「具体」関連として「没後 40 年 吉原治良」「具体躍進」「具体円熟/終焉」を、「芦屋の画塾 芦屋のアトリエ」では、小出権重を中心に芦屋ゆかりの作家の活動を展示しました。更に、初年度に引き続き「アートピクニック vol. 2. 3」を開催するとともに、年間を通して館蔵品の情報や来館者ニーズの把握に努めました。

特に 3 年目の平成 25 年度には他館との共催により、教科書で見るとような「ほんもの」に出会える機会の創出として、「世界を魅了した青浮世絵名品展—春信・歌麿の“露草青”写楽の“藍”北斎・広重の“ベルリンブルー”」展を開催し、また当グループのネットワークにより出版社の協力を得て「学習雑誌にみるこどもの歴史」展を開催いたしました。

平成 26 年度はこの 3 年間の運営実績をもとにして、当館ならではの貴重なコレクション研究をより深化させ、市民にわかりやすく伝える展覧会を開催します。

また、外部との連携を最大限に活かし、芦屋の文化について広い視野を養うことができる展覧会に挑戦し、芦屋市ならびに美術博物館の魅力を広く、多くの来館者に感じていただける充実した展覧会を予定しております。

具体的な内容は、下記の通りです。※展覧会名称は変更する場合があります。

【第一展示室/第二展示室/歴史資料展示室】

◇3月30日(日)～6月15日(日) 67日間(前期:3/30(日)-5/11(日)後期:5/13(火)-6/15(日))

世界を魅了したやまとなでしこ—浮世絵美人帖— 展

自らが遊里に通い、数々の美人画を描いた溪斎英泉、人物を描くことを得意とした三代目歌川豊国、粹で艶やかな着物姿の女性を描いた歌川国芳、彼ら浮世絵師の紡ぎだす女性美は、まさに江戸の花です。本展では大正の時代に商社員で、芦屋に居住されていた片岡家の御当主が、国内外で集められた浮世絵のうち約120点の美人画を展示し、江戸時代の女性が持つ魅力に迫ります。庶民文化が著しく発展した当時の女性の風俗を伺い知ることができる浮世絵美人画から、女性の追い求めていた美とは何かを今一度見つめ直していただきたいと思えます。

また、生田神社のご協力で、「源平合戦屏風」を特別展示し、「清盛」を中心とした美人浮世絵のコーナーに展示します。

【第一展示室/第二展示室】

◇7月5日（土）から9月7日（日） 56日間

GUTAI×INTERNATIONAL 具体、海を渡る 展

1954年、芦屋。吉原治良率いる具体美術協会（以下、「具体」）が結成されました。

「今までにないものを創れ」という吉原のオーダーのもと、具体は前衛美術グループとして先鋭的な作品を次々と発表しました。

具体は結成当初から海外を視野に入れた国際性に富む活動を行ったことでも知られています。

たとえば英訳のつけられた機関誌『具体』の発行、海外の画廊での展覧会の実施、1962年大阪に開館させた具体の会員たちの作品を展示する自前の美術館（グタイピナカ）への海外作家の招聘など、具体が早くから世界を活動の舞台としてとらえていたことがわかります。具体は、吉原治良が発揮した強烈なリーダーシップによりグループとして非常にまとまった活動を18年にわたって展開しましたが、その結束は決して閉鎖的な場において形成されたものではありません。国際的な交流を積極的に深めたその社交性が具体に与えた影響は多大なものであったに違いなく、その検証は新たな具体像に近づかせてくれるに違いありません。

本展は、具体のもった旺盛な国際性を切り口としてこれまでにみたことのない、新たな具体像を探ろうというものです。

【第一展示室/第二展示室】

◇9月27日（土）～11月30日（日）56日間

窓の外、恋の旅。/風景と表現 展

古来より人々は花見や紅葉狩りなどで季節を楽しみ、名勝地や景勝地の風景を愛で、海や川、空の色合いの美しさや山並みの雄大さといった自然美や都市の情景など、生活の中にある風景を享受しながら、日々の暮らしに彩りを添えてきました。

画家や写真家たちは、それぞれの表現方法を用い、関心を寄せた風景を作品として残してきました。いつの時代も人々は風景を楽しみ、日々の暮らしを豊かに過ごしています。

本展では、日本の近代洋画を代表する小出楯重や、具体美術協会のリーダーであった前衛画家の吉原治良の自然を捉えた風景画、同協会の村上三郎のコンセプチュアルな風景作品（再制作）など、昭和初期から高度成長期までの社会背景の中で生まれた作品を展示するとともに、風景を切り取りパソコン上で合成しアニメーション作品を制作する林勇気や、ある風景を細密に描いた上に同じ場所で撮影した映像を重ねるキャンバスプロジェクトのスタイルで制作するヤマガミユキヒロなど、現在活躍する若手作家が表現する「風景画」を紹介し、近現代における風景表現の変容をみていきます。

鑑賞者は、彼らの作品と出会うことで見慣れた風景がもつ力を改めて感じながら、ありふれてはいるがかけがいのない風景や取り巻く環境への思いをより強くしてくれると考えます。そして、日常の風景が持つ魅力を再発見・再認識し、美術と日常との関わり合いに目を向けていただく機会としたいと考えます。

【第一展示室/第二展示室】

◇12月13日(土)～2月8日(日) 43日間

土器どき芦屋の物語 ー遺跡が語る芦屋の歴史ー 展

古代の人々の暮らしぶりを今に伝える土器や石器、古墳から出土玉類や埴輪など、芦屋の古い歴史を物語る歴史資料は、発掘調査の成果によるものです。土中からのメッセージともいえる出土は何百年、何千年も昔の芦屋の姿を私たちに語りかけてくれます。本展では、市内の数多くの遺跡とその出土品をご覧いただき、芦屋の歴史が持つ魅力を発見していただきたいと思えます。

【第一展示室/第二展示室】

◇2月21日(土)～3月1日(日) 8日間

第32回 芦屋市造形教育 展

市内の幼稚園・小学校・中学校の生徒の作品を全館にわたり展示します。

【歴史資料展示室】

◇7月5日(土)～11月30日(日) 112日間

芦屋の歴史と文化財 展

平成24年度に文化財として指定された芦屋川の文化的景観が育んできた芦屋の歴史をご紹介します。古代の人々の暮らし、和歌や物語に登場する風光明媚な土地柄、住宅地として街が発展した阪神間モダニズムを中心に、古代から現代に至るまでの芦屋の歴史にご注目ください。

テーマ① 「物語と昔語り」

芦屋にまつわる物語である伊勢物語、昔話に関する歴史資料を展示。

テーマ② 「徳本上人の奇跡」

江戸時代の浄土真宗僧侶、徳本上人に関する資料を展示。

テーマ③ 「新たな発掘調査」

本年度の考古学による発掘成果の出土品を展示。

【歴史資料展示室】

◇12月13日（土）～3月1日（日）51日間

昔の暮らしーみんな昔は子どもだった 展

人々の昔の暮らしぶりをご紹介する本展において、今年度は特に子どもの生活に焦点を当てます。江戸時代から現代に至るまで学校で教えられた事など、子どもの暮らしぶりをご覧ください。

7. 講座・イベント等の予定（教育普及事業）

3年間の実績をもとに次期5年間に向けて、こどもからご年配の方まで、あるいは親子で、三世代で、ひとりでも、グループでも参加していただける講座やイベントを提供し、美術や歴史その他様々な文化活動に触れるきっかけづくりを積極的に行ってまいります。

また、本年度より、（新）教育普及プログラム「びはくルーム（仮称）」を立ち上げます。

美術系については、これまで展覧会に関連したイベントを多数開催してきましたが、本プログラムでは美術や美術館を楽しむより身近なものへと感じていただくため、展覧会内容に特化せず様々な内容のプログラムを用意し、こどもからおとなまで、幅広い年齢層の参加していただき、どなたでも楽しみながら学べる内容を企画、講師には現在活躍する美術家や大学教授などを招き、当館ならではのレクチャーやワークショップを実施してまいります。

本プログラムを通じて、活動過程の中から美術を学び発見する面白さ・楽しさ・難しさといった体験から、様々な事柄を感じ、考える力を一層強めていただくとともに、より豊かな生活への一歩となるよう、努めてまいります。

そして歴史系については、本年度より、子ども達を中心に、歴史研究サークル「芦屋歴史探検隊」（仮）を立ち上げます。

生涯学習課の協力を得て、芦屋市の小・中学生を中心に芦屋の歴史を実地見学によって共に学習し、芦屋市の誇る歴史の理解を深めてもらいます。歴史を知ることの大切さを実感してもらうための研究会で、将来的には、地域の人々に芦屋の歴史を解説できる「ジュニア学芸員」の養成を目指します。

「びはくルーム」(仮称)

- ◇実施時期 … 2014年4月— 2015年3月までの偶数月を予定
- ◇会場 … 当館 講義室、体験学習室、庭、その他
- ◇参加費 … 無料 但し要材料費
- ◇主催 … 芦屋市立美術博物館

4月	松谷武判+堀尾貞治 トークとワークショップ 「松谷さんと堀尾さんと一緒に遊ぼう！」(仮)
6月	芦屋市内 町歩きまたは建築見学会
8月	夏休み子ども企画(木版、ステンシルプレートで、Tシャツ作り、切り紙ワークショップ等)
10月	秋の夜長を楽しむイベント(音を愛でる、闇を愛でる、夜景写真等)
12月	クリスマス企画、新年から使うお茶碗をつくる
2月	大人の博物館実習

(以上すべて予定)

芦屋歴史探検隊(仮)の立ち上げ

- ◇実施時期 … 2014年4月— 2015年3月までの5回を予定
- ◇会場 … 当館 講義室、体験学習室、庭、その他
- ◇参加費 … 無料 但し要材料費
- ◇主催 … 芦屋市立美術博物館

7,8月	夏休み企画 ①土器・埴輪作り ②勾玉作り ③その他
10月	芦屋市内見学会
12月	見学会成果発表会(*見学会成果を歴史資料展示室にて公開予定)
2月	芦屋神社見学会及び「豆まき」大会に参加

芸術文化事業(文化講座系)

外部有識者や研究者を招聘して各種講演会や講座を実施し、芸術や歴史に対する理解を深めていただきます。また、展覧会に連動した企画を盛り込むなど、展覧会に対する理解を深めていただきます。

古文書講座

当館学芸員又は館外講師による、古文書を解説する講座です。講座を通して、芦屋とその周辺地域の歴史をより深く学んでいただきます。初年度より、年間で数回実施されている講座。回を増すごとに、リピーターも増え、人気の講座となっています。

内容も「展覧会」に合わせながら興味を持っていただいています。今後も継続して参加者のレベルアップを目指します。

ものづくり講座

絵や書などの自由な創作活動や、身近な材料を使った工作、科学的な工作のワークショップを開きます。

その他の子どものためのワークショップ

子どもを含めた幅広い来館者に来ていただけるよう、子ども向けの体験型講座などを実施します。また、幼稚園、小学校などに出向いた「鑑賞講座」などの出前講座も実施します。

*その他 自主事業

「あしやアートバザール」（4月、10月の年2回）を実施します。

8. 個人情報保護

管理上知り得た利用者・関係者の個人情報を保護するために、「芦屋市立美術博物館 個人情報保護マニュアル」に沿った、下記の方策を徹底します。

- ① 法令で認められている場合を除き、個人情報の第三者提供、開示を禁止します。
- ② 個人情報を取得した書類、パソコン、CD、メモリなどの媒体を許可なく外部に持ち出すことを禁止します。
- ③ 紙媒体での個人情報は、必要最小限の保管とするとともに、鍵付きのロッカーに厳重に保管します。
- ④ ホームページ、メールなどへのウイルス侵入を防ぐためセキュリティソフトの整備、定期的なネットワークチェックを行います。
- ⑤ 個人情報の収集時には、必要に応じて職員が説明を行います。
- ⑥ 個人情報の取り扱い業務を外部に委託する場合は、委託先と協議の上覚書を取り交わすなど、厳重な管理を行います。
- ⑦ 個人情報保護に関する研修を年1回以上実施し、定期的に職員が個人情報の取り扱いについて徹底する機会を設けます。
- ⑧ 個人情報保護に関する内部監査を実施します。

9. 安全管理対策

利用者の安全を第一に考え、法定を順守した適切な内部管理を行うとともに、可能な限り危機が起こる前に予見し、危機の回避を図る方策と体制を整えます。「芦屋市立美術博物館危機管理マニュアル」に沿った、下記の方策を徹底します。

- ① 緊急時の状況を想定した防災訓練、防犯訓練を行い、不測の事態に備えます。
- ② 避難経路の確保、非常時の避難器具、消火器具の作動確認を定期的実施します。
- ③ 芦屋市、消防、警察等、関係機関との連携を密にし、防犯情報等の共有に努めます。
- ④ 利用者、周辺施設と連携した訓練を行い、地域ぐるみの防災・防犯体制構築を図ります。
- ⑤ 危機管理マニュアルは職員の周知徹底を図るため週1回の読み合わせを行い、状況に併せた改訂を重ねていきます。

10. 研修

職員のスキルアップ、安全管理体制の徹底を図るため、定期的に研修を実施します。

研修名	対象	頻度
新人研修	新規採用者	入職時
個人情報保護・セキュリティ研修	全職員	年1回以上
接遇・マナー研修	全職員	年1回以上
避難訓練・防災訓練	全職員	年2回以上
防犯訓練	全職員	年1回
職務研修 ※業務に応じたスキルアップなど	各担当職員	職員の申請に応じて責任者が承認

11. その他

①地域、市民との連携

地域、市民、利用者と協同し、共に美術博物館を創り上げていくために下記の取り組みを実施します。

i) アンケート調査の充実

アンケート調査を引き続き実施し、市民をはじめ、幅広い利用者により親しまれ、利用される美術博物館を目指します。

ii) 市民参加型事業の実施

本年度からの新事業、美術系の「びはくルーム」、歴史系の「芦屋歴史探検隊」(仮)を立ち上げることで、市民との協働を目指します。

当館の特徴である美術館と博物館のふたつの機能の融合も、検討していきます。

iii) ボランティアスタッフの育成

地域と共に運営する美術博物館として、より多くのボランティアスタッフが参加可能な企画を実施し、スタッフの育成に努めます。

iv) 学生の職業体験、学芸員実習などの受け入れ

市内中学生のトライやる・ウィークでの職業体験学習や、学芸員の実習受け入れなど美術博物館に興味、関心がある若い世代に体験の場を提供します。

②収蔵品台帳の整備

館の収蔵品の状況把握と適切な管理のため、収蔵品台帳の整備を行います。直近の棚卸時の写真・画像とテキストデータベースを照合し、その資料をもとにしてデータベースを随時更新していきます。

(別添資料)

- ・ 芦屋市立美術博物館 平成 26 年度 展覧会予定
- ・ 収支予算書

収支予算書(平成26年度)

(単位:円)

	予算額
収入支出の差引額(A)－(B)	0

A:(収入内訳)

内 訳 科 目	指定管理料収入	73,823,000
	入館料収入	2,880,000
	施設利用収入	123,000
	駐車場収入	842,000
	自主事業等収入	946,000
	収入合計	78,614,000

B:(支出内訳)

内 訳 科 目	人件費	24,941,000
	事務費	4,365,000
	管理費	10,757,000
	光熱水費	15,325,000
	その他	1,029,000
	事業費	22,197,000
	支出合計	78,614,000

芦屋市立美術館
平成26年度 展覧会予定

* 展覧会名は変更する可能性があります。

		上期					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
歴史資料展示室	世界を魅了したやまとなでしこ—浮世絵美人帖—	芦屋の歴史と文化財					
期間・日数		7/5-11/30					
第1展示室		GUTAI×INTERNATIONAL —具体、海を渡る—					
第2展示室		art trip vol.1 窓の外、恋の旅					
期間・日数	3/30-6/15(前期3/30-5/11,後期5/13-6/15)		7/5-9/7		9/27-11/30		

下期

		10月	11月	12月	1月	2月	3月
歴史資料展示室	芦屋の歴史と文化財	昔の暮らし—みんな昔はこどもだった—					
期間・日数	7/5-11/30	12/13-3/1					
第1展示室	art trip vol.1 窓の外、恋の旅	土器どき芦屋の物語 —遺跡が語る芦屋の歴史—					
第2展示室		第32回芦屋市造形教育展					
期間・日数	9/27-11/30	12/13-2/8		2/21-3/1			